

第 76 回 原子力安全専門委員会定例会（議事概要）

日 時：令和 5 年 10 月 6 日 10:00～10:30

場 所：県庁 10 階 防災センター

出席委員：近藤委員、西本委員、藤野委員

(Web) 鞍谷委員長、泉委員、黒崎委員、山本(章)委員、山本(雅)委員

議 題：

- (1) 原子力発電所周辺の環境放射能調査について
 - ・ 令和 5 年度 第 1 四半期（4 月～6 月）報告
 - ・ 令和 4 年度 報告
- (2) 発電所の運転・建設および廃止措置状況について
 - ・ 令和 5 年 7 月～8 月分報告

概 要：

- 原子力発電所周辺の環境放射能調査の結果、発電所の運転・建設および廃止措置状況について、事務局より説明
- 資料については、次回の原子力環境安全管理協議会の場で配布予定

(原子力発電所周辺の環境放射能調査)

令和 5 年度第 1 四半期

- ・ 県内発電所からの放射性物質の放出に起因する線量上昇は観測されなかった。
- ・ 浮遊じん放射能の連続測定の結果、いずれも天然放射能のレベルであった。
- ・ 一部の試料から過去の核実験フォールアウトが主要因と考えられるセシウム 137 が検出されたが、いずれも環境安全評価上問題となるレベルではなかった。
- ・ 一部の試料から発電所の通常の放射性廃棄物管理放出に伴うトリチウムが検出されたが、いずれも環境安全評価上問題となるレベルではなかった。

令和 4 年度 報告

- ・ 周辺住民等の線量評価の結果、外部被ばく、内部被ばくとも県内発電所に起因する線量影響は無視できる程度であった。
- ・ 変動傾向および蓄積状況の評価の結果、浮遊じん放射能の連続測定については、県内発電所に起因する変動は観測されなかった。環境試料の一部から検出されたセシウム 137 等の人工放射性核種は過去実績と同程度、通常の放射性廃棄物管理放出に伴うトリチウムについても過去実績と同程度の濃度で検出された。

(発電所の運転および廃止措置状況（令和 5 年 7 月～10 月）)

- ・ 計画外の原子炉停止や出力抑制なし。現在、県内発電所 4 基が定期検査中。
- ・ 当該期間において、安全協定に基づき報告された異常事象はなかった。

<主な質疑>

Q. トリチウムの分析結果で、実測値としては現在の福島沖の海域より高い値になっている。このことに対して、県民の方や関連の方からなにかコメントはあるか。

A. 今のところ、原安課、監視センターともに関連の質問はない。

以 上